

篤姫と和宮が愛した 御召縮の解明に向けて



新潟県中越地震を機に十日町市で発見された「松村屋根津家屏風包み紙文書」は、十日町の縮問屋・松村屋が、徳川幕府13代将軍家定の正室・天璋院篤姫や、家定の生母本寿院、第14代将軍家茂の正室・和宮親子内親王をはじめとした将軍家や大奥に御召縮（おめしちぢみ）を納めていたことを示す貴重な資料です。今回の報告会では、内容の解明に向けて、国立民族学博物館の協力により実施した光学調査の手法や、これまでに判明した解読内容について報告します。

- 日時 5月27日(土) 午後3時～4時35分 (開場 午後2時30分)
- 会場 十日町情報館 視聴覚ホール
- 事前申込み不要 **参加費無料** 先着90名 (申込不要)

プログラム

開会	15:00		
開会挨拶	15:00～15:05		国立民族学博物館准教授 日高 真吾
報告1	15:05～15:15	調査経緯の報告	十日町市古文書整理ボランティア 高橋 由美子
報告2	15:15～15:55	光学調査について	関西大学 末森 薫
	(休憩)		
報告3	16:05～16:20	解読の進捗について	十日町市古文書整理ボランティア 関谷 久之
質疑応答	16:20～16:30		
閉会挨拶	16:30～16:35		十日町市古文書整理ボランティア代表 羽鳥 勝男